

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	29	—	事業名	生涯学習推進事業	担当部課	くらし文化部生涯学習課
------	----	---	-----	----------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	4	文化をみがき、人が輝くまち	会計	1 一般会計
		分野別項目	2	住民の自主的な生涯学習活動を支える	款	9 教育費
		施策の進め方	1	自主的な学習の支援	項	4 社会教育費
	まちづくり 行程表	フラッグ	—		目	1 社会教育総務費
		政策分類	—		大事業	7 生涯学習推進事業
	その他(関係法令、要綱等)		第2次長久手市生涯学習基本構想			
事業開始の背景、経緯等		昭和57年度以前～				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 長久手市公民館講座において、第二次長久手市生涯学習基本構想に基づき、「ながくて市民大学」、「土曜英語学習事業」及び長久手主催の講座を開催する。				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住、在勤、在学の方(ただし、講座によっては一定期日までに募集定員に満たなければ市外の方も可)				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 公民館において講座を開催することにより、市民が講座の中で興味を持つジャンルを見つけることで、市民が集まり交流するきっかけづくりを行う。				
	事業を構成する事務事業	① 生涯学習推進事業	改善・見直し	④		
	②		⑤			
	③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)		千円	予算			599	1,252
決算						616	1,153	
人件費(B)		千円	決算			2,979	2,979	
総コスト(A)+(B)		千円	決算			3,595	4,132	

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 募集定員に対する申込者の割合		%	目標	75	80	85	60
実績				79	86	56	80	
B			目標					
			実績					
C			目標					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A	交流のきっかけ作りを目的としているため、申込者の割合を目標とする。 講座申込者数/募集定員 公民館講座事業+大学連携講座事業+市民大学							
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市内に点在する史跡を巡る講座や市内の大学と連携した講座など地域の資源を以下kした講座を実施。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 募集定員に対する申込者の割合が減少している。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 募集定員に対する申込者の割合が減少している。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 公共施設に設置するチラシや回覧の活用等広報の仕方を検討する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか)

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		生涯学習推進事業										
番号	①	事務事業名	生涯学習推進事業		款	9	項	4	目	1	大	7	中	1
事務事業の期間		事務事業開始年度		昭和57年度以前～		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生～4年生：土曜日の英語学習を企画・実施 ・18歳以上：各種講座を実施し、参加者同士が交流しながら楽しく学ぶ機会を提供する。特に、大学連携講座では、大学における専門的な知識を市民に伝えるとともに、研究成果を社会へ還元する。 ・60歳以上：退職後世代を生涯学習へ導くため市民大学を実施する。（すべて原則、市内在住・在勤・在学）
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	地域の人材を活用し、市民の生涯学習への関心を高め、交流する楽しさを知るきっかけとしていただくとともに、いきがいつくりと居場所づくりを推進する。また、子どもたちにとっても豊かな土曜日の活動を実現する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			599	1,252	1,926
		決算			616	1,153	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
講座数	講座	目標	10	12	9	10	11
		実績	10	12	9	10	
講座参加者数	人	目標	200	190	190	140	170
		実績	170	284	126	154	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

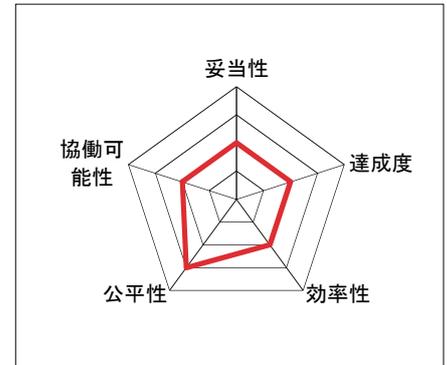
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市民のより、自主的な生涯学習の推進のため、ながくて・学び・アイ講座で開講が可能であると思われる内容や毎年定期的に行う必要が無い講座は公民館講座では行わないこととする。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
生涯学習は、高齢の方のためだけでなく、子どもたちにも推進していく必要がある。現在、学校週5日制が実施され、10年余りが経過し、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するため土曜日の英語学習講座を新設した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	2
効率性	2
公平性	3
協働可能性	2



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
平成28年度から、小学校1年生から4年生を対象とした、土曜日の英語学習を実施し、定員40名のところ、33名が参加した。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
民間ではなく、行政が行うべき講座であるか考える必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
募集定員に対する申込者の割合が減少しているため、講座の内容についての見直しと広報の仕方を検討する。